

新宿駅東口における歩行者天国の実施にむけた課題に関する考察

5214DG03-0 Liang, Wan-yun*

概要：新宿駅東口は、昭和初期から、飲食施設、繁華街のほか小規模店舗から大規模商業施設までが立地する娯楽機能を持つ地区として発展してきた。このような環境で、『歩行者天国』は 1970 年新宿駅東口で実施された。近年、新宿を訪ねてくる観光客の増加につれ、『日本の新宿』から『世界の新宿』になろうとの声が上がっている。世界中の人々に発信できるようにするためには、魅力的な街になることが望ましい。そのためには、歩行者天国を活かし、より合理的・効果的な歩行者空間の管理方策を講じることが重要である。本研究では、現状の歩行者空間を分析することで、より合理的・効果的な歩行者環境を整備するための課題を明らかにすることを目的とする。

キーワード： 新宿駅東口、歩行者流動、歩行者天国、イベント

1. 研究目的

本研究では、新宿駅東口における歩行者空間の現状を分析することで、より合理的・効果的な歩行者環境を整備するための課題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の概要

2.1. 既往研究の整理

(1) 新宿駅を中心とする歩行者流動の分析

大庭らは、新宿地区の流動人口の発生源の集散量を交通機関別、系統別に調査することで、新宿地区内各街路における流動の実態を把握している。歩行者流通には経路に沿った路上流通と地下鉄プロムナードによる地下流通との2種類に分けている。歩行者数の調査は、週日、土曜、日曜の3週について行っている。

(2) 新宿駅東口地域都市再生安全確保のための研究

新宿区は、新宿駅周辺地域での防災機能を強化できる体系化したモデルづくりのために、地域の人口および交通関連データ、建物の立地状況などを分析し、課題の抽出を行っている。交通関連データの収集は、歩行者交通量調査をし、比較検討を行っている。歩行者交通量の調査は、歩行者の流動路線上に調査地点（路上 15 ヶ所と地下 17 ヶ所）を定め、調査地点を一定時間（15 分）内に通過する歩行者数を 14 時～20 時、15 分間隔に検数することによって流動の性格を把握している。また調査は平日、日曜の2種類について行った。

2.2. 研究の位置づけ

既往研究の歩行者交通量のデータを踏まえ、本研究は現状の歩行者流動の調査し、歩行者空間が時間によって歩行

者の利用状況を分析することで、より効果的な歩行者空間管理方策を整備するうえでも、一つの参考になる。

2.3. 研究の範囲

調査範囲は、現在の大規模商業施設の分布中心である新宿大通り周辺を対象としている。調査対象範囲の境界(きょうかい)は、西側を JR 新宿駅および沿線、東側を御苑大通り、北側を靖国通り、南側を甲州街道までとしている。

2.4 研究方法

(1) 流れの変化とイベントの開催との関係検証を行う。

歩行者の流動方向のデータを用いて、イベントの開催場所への流れがどのような増加傾向を示すかを検証する。使用するデータは、路上と地下経路の利用とに分ける。

(2) イベントのための通行止めと毎週日曜日に行われる通行止めの効果を比較する。

イベント開催日と日曜日における歩行者交通量を用いて、30 分間隔に集計し、地理情報ソフトで地図にする。

(3) 平日と休日における歩行者の密度分布重心の合致性

既往調査Nであり、駅周辺の 25 ヶ所で行われた歩行者交通量のデータを用いて、歩行者の密度分布を地理情報ソフトで地図にし、歩行者分布の重心を認識する。ほかの空間情報と対象地区の社会的な属性を用い、歩行者密度分布との関連性について分析を行う。

3. 調査概要

3.1 調査地区概要 ^[1]

新宿三丁目および末広地区は、駅から最も近い地区であり、新宿通りを境界として機能分布が分かれている。1980

年代から、大規模な商業施設の次々に誕生と社交娯楽機能のピークを迎えとがあいまって、地区全体は販売機能へ移っている。末広地区は、1970年代から飲食食品が主な機能である一方、近十年においては社交娯楽機能が増加している。

3.2 イベントにおける通行止めの歩行者交通量調査

調査方法は、通過する歩行者を、方向と性別に分けられ、数取器で15分間隔に検数する。

3.3 イベントのための通行止めと毎週日曜日に行われる通行止めの空間的な役割の調査

日曜日の定例通行止めの実施範囲は面的なものである、その一方で、平日におけるイベントのための通行止めは、線的なものである。

3.4 平日と休日における歩行者の密度分布重心の調査

調査方法は、歩行者断面交通量のデータを用いて、歩行者の密度分布を地理情報ソフトでラスター情報で表示し。調査地点は、以下のとおりである(図1)。



図1. 調査地点

4. 調査結果

4.1 イベントにおける通行止めの歩行者交通量調査結果

調査結果によると、歩行者流動のピーク時間帯とパフォーマンスを開催する時間帯と合致していない。イベントの日に、通行止めの街道での歩行者交通サービスレベルは高い状態といえることが判明した。結論として、イベントの開催における通行止めは歩行者の交通量への影響が限られ

ている。

4.2 イベントのための通行止めと毎週日曜日に行われる通行止めの空間的な役割の調査結果

調査の結果は、休日の歩行者断面交通量は大規模商業施設の近くの調査点が最も高いとみられる。平日における歩行者断面交通量は、新宿駅の近く、地下鉄の出入り口と地下鉄プロムナードでより高いとみられる。このような空間分布の差異は、地区の昼間人口の構成の情報で分析するうえで、外国人観光客の来街との関係性を検証することは、今後の課題として行う。

4.3 平日と休日における歩行者の密度分布重心の調査結果

休日の午後は新宿駅東口の改札の周辺、地下鉄新宿三丁目駅の出入口と伊勢丹などの大規模商業施設では、歩行者分布の重心である。平日のピーク時間帯は新宿駅東口の改札の周辺、地下鉄新宿三丁目駅の出入口と伊勢丹などの大規模商業施設では、歩行者分布の重心である。

5. まとめ

現段階の研究より、イベント通行止めと定例通行止めの歩行者交通量の役割が空間的な区別が見られる。歩行者の流れの変化は、イベントの開催との相関性が低いと考える。前回の歩行者交通量調査を用いた歩行者の密度分布の分析の結果は、休日の午後は新宿駅東口の改札の周辺、地下鉄新宿三丁目駅の出入口と伊勢丹などの大規模商業施設では、歩行者分布の重心である。

参考文献

- [1] 深澤剛、初田亨、川島一記“新宿駅東口周辺における1902年から2005年までの商店・事業所の建築機能分布からみた都市の歴史の変遷”，工学院大学研究報告、vol. 104, pp.111-117, 2008
- [2] 新宿区“新宿駅東口地域都市再生安全確保計画作成支援業務委託業務実施結果報告書”，2014
- [3] 大庭常良、難波昌子、水沼利夫“新宿駅を中心とする歩行者流動の実態について”，日本建築学会論文報告集、vol. 89, pp.449-454, 1963